

災救通信

令和1年
7月1日
第18号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

宣誓
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

北海道・東北 ブロック訓練

災害救援ひのきしん隊（田中勇文本部長）では秋田県男鹿市に於いて5月29日から31日にかけて「北海道・東北ブロック訓練」を実施した。このことから北海道教区隊は5月28日午後4時、北海道教務支庁に参加者が集結し、2トパネルバンに装備を積み込んで教務支庁を出発した。

予算軽減のため、夕食の弁当は災救隊スタッフ夫妻が中心となって愛情たっぷり「のり弁当タルタルと夜食セット」を手作りしてもらい、隊員移動用のマイクロバスはフェリーへ積み込まず、苫小牧送迎は月寒分教会長夫人が担ってくれた。

往路は苫小牧東港から秋田港への新日本海フェリーに乗船。午後7時30分出航した。船内には以前のような、じゅうたん席は無く、みな2等寝台室でゆっくり休ませてもらうことが出来た。翌朝7時35分秋田港へ接岸下船。秋田港には迎いのマイクロバスが待機していた。運転は青森教区青年会委員長、奥羽分教会高木百喜久（たかぎゆきひ



巨大なまはげがお出迎え。

さ）さんが担当。およそ1時間程で宿营地のなまはげオートキャンプ場へ到着した。また、今回、北海道教区からの参加者は全員で24名であったが、道南地区からは函館、渡島の隊員が青森航路で参加し、他に自車で2名が宿营地で合流することとなった。

29日午前、早速受付を済ませると各教区隊に割り当てられたエリアに、宿営用の5人型テントを順次設営する作業が開始された。北海道教区隊は7張り当てられ、教区副隊長がテント割りを伝え、各自の荷物をそれぞれ搬入した。



セレモニー広場にて、結隊式の直前に規律訓練。

昼食後、規律訓練、班長任命などのオリエンテーションが行われた。北海道教区隊は総員24名第1班となった。

結隊式から作業

オリエンテーションに続き、結隊式が行われた。主催者として中田善亮表統領があいさつに立ち「災害救援隊であり、ひのきしん隊でもある。訓練を通して地域連携や懇親を深め、災害時に心を合わせて迅速に隊の活動が出来るよう訓練に励んでもらいたい」とあいさつがあった。続いて金田勝年衆議院議員からと菅原広二男鹿市長が来賓としてあいさつした。

その後、隊員は4つの現場に分かれ作業を開始した。



一面に散乱した漂着ゴミをポリ袋へ。時に悪臭も漂う。



石原で作業を手こずらせるが丁寧に進める。

北海道教区隊は福島教区隊とタッグを組み、男鹿国定公園、入道崎の30m程の断崖絶壁を下って海岸に降り立ち、岬に打ち上げられた漂着ゴミをポリ袋に回収し、所々に集積した。海岸は石原でもとも歩きづらく、漁網やロープなども石に食い込み、ドラム缶やタイヤ、灯油ポリタンクなどの大きなゴミも散乱して作業はハードなものとなった。

一方、青森、岩手、宮城、山形の各教区隊は別現場での作業となり、男鹿市内が一望できる寒風山ふもとの広場を、草刈り機で除草した。また地元、秋田教区は宿营地であるキャンプ場の草刈りや雑木伐採などの作業を行う班と周辺観光施設での整備作業を実施した。



秋田教区婦人会に感謝、感謝、感謝。

作業を終えた一同は一日の汗を流しに、温泉施設へと現場から直行した。全体で300人を超える参加者が交代で入浴するとしても大変な事である。秋田教区では多くの施設と交渉を重ねて割り振りしたのである。初日は現場から40分ほど離れた「夕陽温泉WAO」となった。全身浴、気泡浴、圧中浴、寝湯、白湯、冷水浴、露天風呂の7種類の湯とサウナが楽しめた。

入浴を終え帰隊すると夕食となった。男子食事はもちろんであるが、秋田教区の婦人会が結集し、ひのきしんされていた。何と！一歩多く集まった時は80人を上回ったという。只々、驚きと感謝で頭がさがる。夕食後は夕礼(夕づとめ)、全体会議として班長、副班長、各スタッフが打合せを行い、初日が暮れていった。

秋田教区隊

秋田教区隊では今回のブロック訓練実施に際し、2年ほど前より準備を進めてきたという。特に男鹿市が地元である教区副隊長の宮野久道 船川港分教会長は、「県内全域を探して、これだけの人数が安全に作業や生活が出来る場所を確保するのに大変苦労した。また、結果地元の男鹿市となったが、災救隊の活動を理解、信用してもらおうのに何度も行政や施設に出向いた。」と話し「今後はこの信頼関係を継続し、地域に密接につながっていきたい。」と述べた。



宮野久道秋田教区副隊長。

更に秋田教区隊 隊長 小松道男 東滝沢分教会長に訓練についての思いを尋ねた。「思い切った訓練を受け、とてもありがたいと感じている。本部指導の下、様々な役割や職掌を分担し徹することを学ぶことが出来た。行政とのつながりも出来、特に教区内の結束が強まったと思う。中でも婦人会と各会とのつながりが深まり、婦人会同士も心が寄り合ったと聞く。今後も教区内外の絆を維持し深めていきたい。」と語ってくれた。



小松道男秋田教区隊長。

作業からの解散まで

5月30日、昨夜からの冷え込みが続く中、朝礼を行う。朝食を済ませ出勤準備を整える。時間になると出勤前の点呼を行い一斉にマイクロバスで現場へと向う。二日目も入道崎。昨日集積したゴミ袋を、30袋の崖下から隊員が1列になつて崖上へ手渡しする。何袋も何袋も順送りされてくる。しばらくすると「ラスト。」と声が掛かり小休止の声。一休みの後、今度はトラックまでの100袋余りを一人一ひとりが4、5個の袋を抱えひたすら運ぶ。瞬く間に2ストラック2台が、山盛りのゴミ袋でいっぱいになった。崖下へ降りてはゴミを回収し、溜まると運び上げ積み込む。こうした作業をくり返しての一日となった。

作業を終えるとお楽しみみの入浴時間。この日は宿営地に近い男鹿温泉郷にあるセイコーグラインドホテルの大浴場。源泉掛け流しの内湯と露天風呂。サウナもある。温泉郷には他にも6つのホテルなどがある。ぜひプライベートで訪れてみたいものである。入浴後は待ちに待った



崖下から心を合わせて漂着ゴミを運び上げる。

夕食の時間。メニューは肉じゃが、豚キムチ汁、とろとろワカメ。また名物のいぶりがっこ(燻製たくあん)は毎食のように並んでいた。食後は夕礼、全体会議と続き、本部や他教区との懇親の場面もあって和やかに一日を終えた。

31日最終日。夜明けも早く、朝礼前に気の早い面々は荷物を車に入れたり、テントを撤収し始めていた。朝礼、朝食と続き、いよいよ最終日の出勤となった。出発には婦人会の黄色い声援が飛び、隊員の乗った各車両は応えるように手を振り「行つてきまうす」と大きな声。災救隊名物のお見送りの光景である。各班の撤収班もお見送りに立つ。この日は昼から雨の予報もあり、現場、宿営地撤収もテンポ良く作業が／

／進んだ。

午前11時全員がセレモニー広場へ集合し、解散式が行われた。隊員を代表し秋田教区小松隊長が作業報告を行い、それを受けて田中勇文本部長があいさつにたった。また、佐々木正明秋田教区長が登壇し、この度の訓練開催の感想とお礼を述べた。解散式の最後には訓練期間中、食事などのお世話取りをしていただいた、秋田教区婦人会に対し、お礼の花束がサプライズで本部長より手渡され、この度の訓練が締めくくられた。



トラックに満載された漂着ゴミ。

解散式を終えた北海道教区隊の本隊は一路青森県八戸港へ向け、すぐさま出発した。また、自車で駆けつけた隊員や道南チームも目的地へ向かい宿営地を後にした。夕方、八戸港へ着いた隊員は送迎者と別れ、近くのスーパー銭湯で汗を流し、22時出航の船に乗船した。

翌6月1日6時、苫小牧港に着いて、迎えのマイクロバスにて7時半頃、教務支庁へ戻り全ての日程を事故無く務め終えることが出来た。END



田中勇文本部長。

本部長談話

この度の訓練を終えて、地域間の連携や懇親を深められたことありがたく思う。特にこの訓練地、男鹿の方にひのきしんの姿をご覧頂き、非常に感心、お褒め、お喜びいただけただけなこと予想を超えるものであった。心に寄り添い技術を磨くひのきしんが、形の復興と心のたすけいあいとなる。隊の充実に務めたい。

訓練への差し入れ

お礼申し上げます

西垣教区長・歌笛町分教会
余市港分教会・祝梅分教会
北盛分教会・北治分教会
都千歳分教会・網走大教会長
公輝分教会・
秋田、山形、青森、岩手、
福島、宮城の各教区

金一封、寸志、日本酒、ビール
ウイスキー、焼酎、つまみ、刺身
焼肉、行者ニンニクなど

作業報告

北海道教区隊参加者 24名 全体284名 のべ794名

◎入道崎 全長300mにわたる海岸ゴミ撤去・流木整理
ゴミ運搬 2t車両11回 軽トラ2回 計23t

◎寒風山 下草刈り 107,250㎡ 雑木伐採845本

(東京ドーム 2.3 個分)

◎なまはげ館周辺 草刈り 700㎡ 雑木10本

◎キャンプ場内 草刈り 6,170㎡ 雑木伐採134本